

国土交通省 大戸川ダム工事事務所では、治水事業としてダム建設を進めているほか、インフラツーリズムをはじめ、周辺地域を含めたダムの利活用について、地域と連携して検討しているところです。

大津財務事務所では、地域の課題解決支援を通して地方創生を応援しており、ダム建設を通じた地域づくりの現場を見て、それに関わる方々の話を聞くことで、地域の未来について一緒にできることはないかを考えるため、今回、ダム建設に関わる現場・地域を見てきました。

ダム建設と地域づくり

だ い ど が わ

～建設中の大戸川ダムの“今”を見てきました～



大戸川の概要・歴史

大戸川は、甲賀市信楽町から大津市南部を流下して、瀬田川に合流する淀川水系の一级河川です。かつては東大寺などの建立のため流域の森林が伐採され、山肌が荒れることで川に土砂が流れ込みました。その土砂が川底を上げたことで、**大戸川はたびたび氾濫を繰り返してきました。**

平成25年の台風18号では60戸の浸水被害が発生するなど、**大戸川流域は今なお洪水の不安の残る地域**となっています。

大戸川ダムの機能



洪水時のみゲートを閉めて上流に水を貯めます

大戸川ダムの効果



大戸川はその流域だけでなく、合流する瀬田川や宇治川、さらに淀川に**まで影響を与えます。**現在、淀川水系では、大災害を未然に防ぎ、流域の人々の暮らしを守るために、各支川の複数のダムで洪水調節を行っています。

大戸川ダムができることによって、大戸川の治水だけでなく、その下流にある淀川の洪水調節を行う天ヶ瀬ダムの負担が軽減され、**淀川水系の人々の暮らしを守っていくことに繋がります。**

大戸川ダムはダムの二次調節という機能を果たす予定です。洪水時のみゲートを閉めて上流に水を貯め、放流量を減らすことで下流の天ヶ瀬ダムの負担を軽減します。これにより、天ヶ瀬ダム、大戸川ダムの連携によるダイナミックな淀川水系の治水システムが可能となります。

また、**大戸川ダムは洪水時のみ水を貯める流水型ダム**なので、貯留型ダムに比べると、生態系や水質などの**環境への影響は低いとされています。**

瀬田川の水管理施設「瀬田川洗堰」



瀬田川と大戸川の合流地点

ダム建設のため移転した集落の歴史を保存した収蔵庫



ダムに沈む町



ダム建設に伴い付け替えられた道路から見た、移転した集落跡地



建設用地の地質調査現場



集落の移転後に残るバス停



移転したかつての集落はこの真下にあります！



ダム建設予定地と想定最大水位を示した標識



大戸川ダム工事事務所では、ダムの建設と並行して、ダム周辺の整備やダムをきっかけとした周辺地域の活性化について検討を行っていました。

ダム建設予定地周辺は金勝アルプスや湖南アルプスに囲まれた自然豊かな地域で、現道（県道大津信楽線）は自転車のツーリングにも利用されていることから、遊歩道

の整備なども考えられるほか、工事中・完成後のダム見学ツアーなど、今後、周辺自治体と一緒にダム利活用の未来に向けて協議を重ねていくとのことでした。

今回、大戸川ダムの建設現場やそれに関わる地域を訪れ、ダムにまつわる地域・人々の歴史、思いに触れたほか、ダムを活かしてどのような地域づくりを描いていく

かなどの悩みを聞くことができました。

大津財務事務所としましては、大戸川ダム工事事務所と周辺自治体の連携をサポートするなど、地域の発展及び魅力向上に貢献できることがないか、今回の視察を機に考えていきたいと思ひます。